

下水道ビジョン

● 新下水道ビジョン(国土交通省)

下水道事業は普及促進から、維持管理・事業経営の時代に入っています。このような中、人口減少等の社会情勢の変化を踏まえ、主なマスタープランや全体計画の内容を見直し、優先順位を含めた概ね10年間の具体施策・目標を、地域住民への公表・意見聴取を経て取りまとめています。

新下水道ビジョンでは、下水道の究極の使命として「持続的発展が可能な社会の構築に貢献」を掲げ、それを実現するために4つの具体的な使命が示されています(図1)。また、これらの使命に鑑み「循環のみち下水道」という方向性は、新下水道ビジョンにおいても堅持することとし、この「循環のみち下水道」の成熟化を図るため、「持続」と「進化」の2つを柱としています。

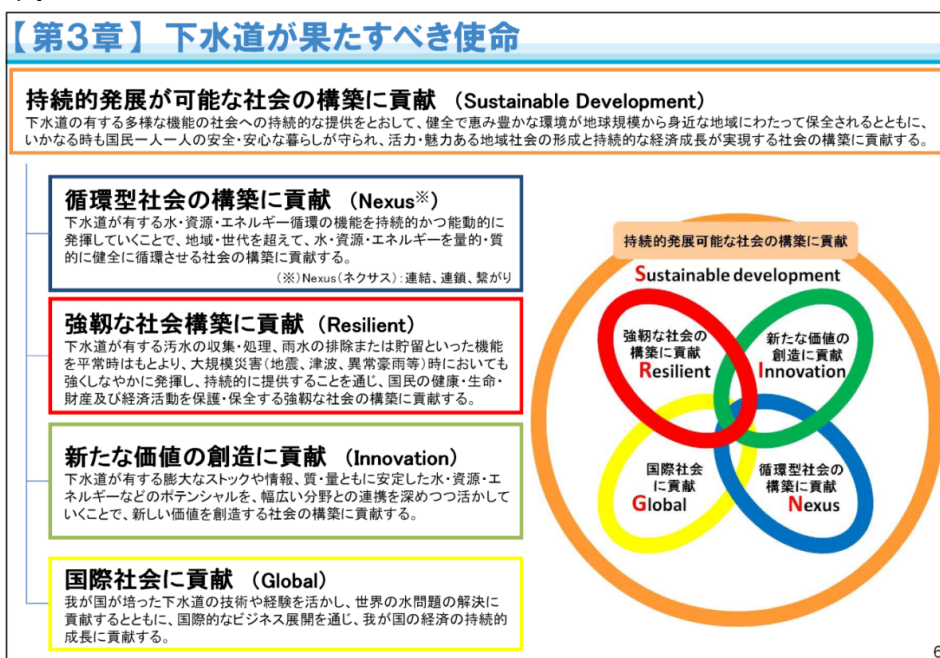


図1 国土交通省「新下水道ビジョン」における下水道の使命

● 自治体における下水道ビジョンの策定

各自治体における「下水道ビジョン」は、事業の持続的運営のための道標として重要な役割を果たします。

この下水道ビジョンは、事業の目標像・方針を設定し、施策の体系化や財務評価による優先順位等を明確にしたものです。策定にあたっては、市民説明会やパブリックコメントを実施し、市民の意見を広く反映させていきます。市民と情報を共有し、事業の現状と今後の計画について相互理解を深め、効率的・効果的な事業運営を目指すものです。

各施策の目標は、市民にも分かりやすい形で伝えられるアウトカム目標で設定します。アウトカム指標は、計画の進捗状況が市民にも確認できるとともに、職員が共通の目標を持った職務遂行にも役立ちます。

なお、作成した下水道ビジョンは、PDCAのサイクルをまわして、一定期間毎に計画の見直しを図り、下水道事業の継続的な改善に取り組んでいきます。

● 検討フロー(例)

図2に下水道ビジョン検討フロー(例)を示します。

①基礎資料の収集・整理

下水道ビジョンを作成する際に必要となる資料(基本構想、基本計画、環境基本計画、各種事業計画、下水道事業概要、国や都道府県の下水道ビジョン、各種統計書等)を収集し、その内容を整理します。

②地域特性の把握と課題整理

地域特性を把握するとともに、下水道整備の現状を整理し、下水道整備に係る課題を整理します。

③取り組み方針の検討

基本構想や総合計画、環境計画等をもとに、将来の水環境目標像を把握し、目標像達成に向けての下水道施策の役割を検討した上で、国や都道府県による下水道政策の方向性、下水道整備に係る課題を勘案し、今後10年先の下水道施策の取り組み方針について検討します。

④具体的施策の検討

今後10年先の下水道整備への取り組み方針にしたがって、具体的な施策メニューのうち、重点施策及び重点地区について整理し、財務評価による経営の見通しを踏まえた施策の優先順位を設定します。

⑤財務評価による経営見通し検討

具体的施策の検討での各施策の優先順位を加味して、施策実施シナリオ別の財政シミュレーションによる財務評価を行い、今後10年間の経営の見通しについて検討します。

財政シミュレーションでは、下水道使用料体系について他都市との比較を行い、その妥当性についても検証します。

⑥アウトカム指標の検討

下水道施策の進捗状況を時系列的に管理でき、住民にも説明しやすいアウトカム指標を各施策について設定し、施策の優先順位や財務評価による経営の見通し等をもとに数値化します。

⑦下水道ビジョンの作成

検討した成果について、今後の下水道政策の方向を目指しつつ、地域特性を踏まえたブロック毎の目標像と重要施策、並びに自治体全体を踏襲するテーマ(キャッチフレーズ)を設定した上で、下水道整備の取り組み方針、具体的施策とアウトカム指標値、施策推進のロードマップ、管理と経営に関する事項を取りまとめた「下水道ビジョン」を作成します。

⑧パブリックコメントの実施

作成した「下水道ビジョン」の原案をもとに、パブリックコメントを実施し、アンケート調査等により住民等からの意見聴取を行います。本業務では、パブリックコメントに向けた下水道ビジョン原案を作成し、聴取した意見を踏まえビジョン原案の修正を検討します。

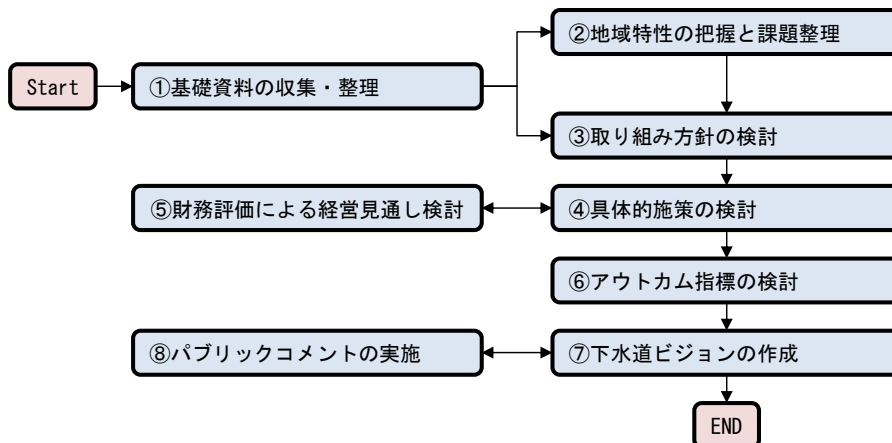


図2 下水道ビジョン検討フロー(例)

弊社では、これまでの下水道ビジョン策定業務に携わった経験を活かし、お客様の下水道事業における課題を踏まえた下水道ビジョン作成をお手伝い致します。